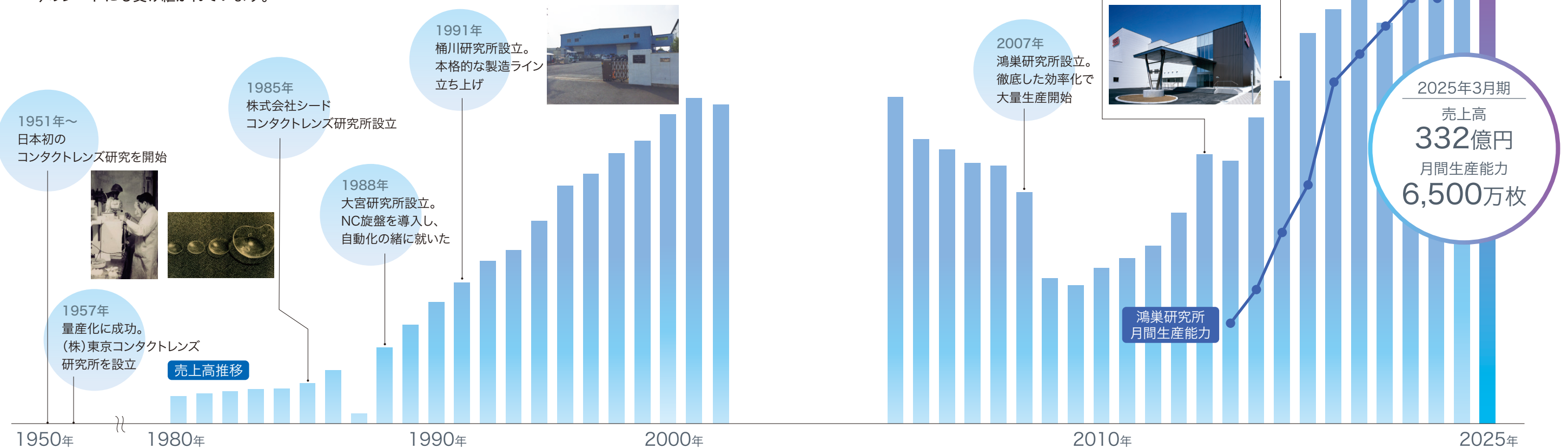


高品質な商品をお届けしたいという想いで、 一人ひとりの「みえる」に貢献

シードの歴史は、義眼製造を営む厚沢弘陳が、順天堂大学に協力する形でコンタクトレンズの研究に着手したところから始まりました。
創業当初は、一人ひとりの眼に合わせ手作業で度数を調整する製法でした。
丁寧なものづくりで高品質な商品をお届けしたいという精神は、今のシードにも受け継がれています。

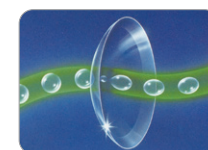


コンタクトレンズの普及

ハードコンタクトレンズが主流だった1972年、日本初のソフトコンタクトレンズを発売。装用感の良さから徐々に需要が高まり、シードは品質を追求し改良を重ねました。1988年には製造工程の自動化が実現し、コンタクトレンズ普及に向けた基盤ができました。



1972年 ソフト
ソフトコンタクトレンズを発売
日本初のソフトレンズ



1984年 ハード
酸素透過性の高い新素材を採用
ハードコンタクトレンズ「マイコンハイO₂」を発売



1992年 ケア
ソフトコンタクトレンズケアシステム「コンセプト F」を発売
煮沸消毒不要のケア用品

使い捨てコンタクトレンズのニーズ増加

1991年、日本市場に1週間タイプの使い捨てコンタクトレンズが海外から投入されます。衛生面の問題がクリアされたことで一気に需要が高まり、1997年にはシード初の2週間交換型のコンタクトレンズを発売しました。その後、市場は1日使い捨てコンタクトレンズの需要拡大によりさらなる大量生産が求められ、2007年に60億円を投じて鴻巣研究所が竣工。国産初の高品質な使い捨てコンタクトレンズの大量生産を実現しました。また、2012年に発売した、新発想のサークルレンズがさらなる成長を支えました。



2004年 2週間交換型
2週間交換コンタクトレンズを発売
初の国産使い捨てレンズ



2009年 ワンデー
1日使い捨て
コンタクトレンズを発売
初の国産ワンデー



2012年 ワンデー
瞳の輪郭を際立たせる
サークルレンズを発売

付加価値のあるコンタクトレンズを提供

2010年代以降は、時代とともに変化するニーズを捉え、視力矯正の効果があるオルソケラトロジーレンズや、眼圧変動を測るセンサーが搭載されたスマートコンタクトレンズ等、時代に先駆けて新たな付加価値のあるコンタクトレンズを商品化してきました。



2013年
オルソケラトロジーレンズ「プレスオーコレクト®」の販売を開始



2018年
スマートコンタクトレンズの国内承認を取得 **世界唯一**



2019年 ワンデー
EDOF原理を採用した遠近両用コンタクトレンズを発売 **日本初、医療発※**



2021年 ワンデー
デジタルデバイス使用時の瞳のストレス軽減を目指して
開発したコンタクトレンズを発売



2022年 ワンデー
シリコンハイドロゲルレンズを発売

※ EDOF (拡張焦点深度) の原理を取り入れたコンタクトレンズとして承認を取得し、日本で初めて製品化